

2-2 第23回BELCA賞について

(1) 第23回BELCA賞の受賞建築物

第23回BELCA賞については、平成25年5月～7月の間に募集され、表－4の第23回BELCA賞選考委員会による厳正な選考の結果、表－5のロングライフ部門3件及びベストリフォーム部門7件の計10件が選定され、平成26年2月公表された。

これにより受賞建築物の件数は第23回までで、ロングライフ部門102件、ベストリフォーム部門124件の計226件を数えている。

表－4 第23回BELCA賞選考委員会

委員長	内田 祥哉	(東京大学名誉教授)
副委員長	三井所清典	(㈱アルセッド建築研究所・芝浦工業大学名誉教授)
副委員長	鎌田 元康	(東京大学名誉教授)
副委員長	深尾 精一	(首都大学東京名誉教授)
委員	碓氷 辰男	(東京建物㈱)
委員	河野 晴彦	(大成建設㈱)
委員	興 尉	(㈱日本設計)
委員	児嶋 一雄	(鹿島建設㈱)
委員	児玉 耕二	(㈱久米設計)
委員	小松原文明	(㈱関電工)
委員	齊藤 一男	(三機工業㈱)
委員	若松 雅弘	(日本管財㈱)

(順不同、敬称略、所属は平成26年2月時点)

表ー5 第23回BELCA賞表彰建築物（順不同）

ロングライフ部門（順不同）

	建築物名	所在地		竣工年	用途
		所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	キングホームズ 代官山	東京都目黒区上目黒1-8-10		1975年	共同住宅（賃貸）
		根津 公一	大成建設(株)	大成建設(株)	(有)三事保全社
2	神戸松蔭女子学院大学 六甲キャンパス	神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1		1980～1981年	大学
		学校法人 松蔭女子学院	(株)竹中工務店	(株)竹中工務店	学校法人 松蔭女子学院
3	明治神宮 外拝殿	東京都渋谷区代々木神園町1-1		1958年（2011年改修）	拝殿
		宗教法人 明治神宮	明治神宮臨時造営部、 (株)木内修建築設計事務所（改修設計）	明治神宮臨時造営部、 清水建設(株)（改修施工）	宗教法人 明治神宮

ベストリフォーム部門（順不同）

	建築物名	所在地	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
		所有者	改修設計者		改修施工者	
1	裏磐梯高原ホテル	福島県耶麻郡北塩原村 大字松原字湯平山1171	1983年	2012年	ホテル	ホテル
		(株)アサヒプロパティズ	(株)竹中工務店		(株)竹中工務店	
2	大阪大学会館	大阪府豊中市待兼山町1-1	1928年	2011年	大学	大学
		国立大学法人 大阪大学	大阪大学、(株)坂倉建築研究所、 (株)平田建築構造研究所、(株)新日本設備計画、 (株)日本設備総合研究所		(株)安藤・間、旭日電気工業(株)、 柳生設備(株)	
3	たまむすびテラス （りえんと多摩平、 AURA 243多摩平の森、 ゆいま～る多摩平の森）	東京都日野市多摩平 3-1-6～8	1961年	2011年	共同住宅	シェアハウス、 菜園付き共同住宅、 高齢者向け住宅、 介護福祉施設
		独立行政法人 都市再生機構	(株)リビタ、(株)ブルースタジオ、 (株)プラスニューオフィス、 (有)オンサイト計画設計事務所		(株)長谷工リフォーム、(株)CMC、 大和小田急建設(株)	
4	つるぎ町立半田小学校 管理教室棟	徳島県美馬郡つるぎ町 半田字田井289	1970年	2012年	小学校	小学校
		つるぎ町	多田善昭建築設計事務所、 (株)堀江建築工務研究所、(株)アーケテクノ		(株)松考建設、三笠電機(株)	
5	東京大学伊藤国際学術 研究センター （赤門書庫）	東京都文京区本郷7-3-1	1916年	2011年	大学（史料編 纂所の書庫）	大学（レストラン、 ファカルティクラブ、 会議室）
		国立大学法人 東京大学	香山壽夫建築研究所、鹿島建設(株)		鹿島建設(株)	
6	東京都美術館	東京都台東区上野公園8-36	1975年	2012年	美術館	美術館
		東京都	(株)前川建築設計事務所		大成建設(株)、名工建設(株)、山口建設(株)	
7	東京理科大学 神楽坂キャンパス	東京都新宿区神楽坂1-3	1956～1981年	2008～2012年	大学	大学
		学校法人 東京理科大学	(株)竹中工務店		(株)竹中工務店、(株)TAKイーヴァック、 東洋熱工業(株)、斎久工業(株)	

(2) 第23回BELCA賞選考総評（内田委員長）

BELCA賞は、良好な建築ストックが、現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も、永く維持保全されることが計画されている模範的な建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門とし、平成3年から昨年まで、表彰件数は216件を数えている。表彰は、ロングライフ部門で、所有者、設計者、施工者、維持管理者の4者、ベストリフォーム部門で、所有者、改修の設計者、施工者の3者としている。

昨今の地球環境問題にともない、BELCA賞への関心は年々高まりつつあるが、現代社会の中で活用されるためには、ロングライフ部門では設備の抜本的現代化が必要であるのに対し、ベストリフォーム部門では歴史的記憶が尊重される傾向が増している。そのため、近年は両部門の件数を分けずに、合わせて10件を選考している。従って本年はロングライフ部門3件、ベストリフォーム部門7件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、豊かな森と共に40年近くにわたり住まわれてきた高級賃貸マンション、緑豊かなランドスケープとシークエンスを意識した空間構成の大学キャンパス、外観の姿を変えないように伝統木造技術を用いて耐震補強工事を行った神社拝殿が選に残った。

ベストリフォーム部門では、外観と周辺環境を維持して既存の良さを活かしながら、魅力と付加価値の向上を図る改修を行なったリゾートホテル、竣工当時の資料が少ない中で、写真や現地調査により建設当時の意匠を推測しつつ明確な方針を設定して改修された大学会館、半世紀前に建てられた団地を民間事業者3者がそれぞれの住棟を借り受けて、独自の企画により再生を図ったシェアハウス・住宅・福祉等の複合施設、限られた予算の中で耐震改修や機能再生など現在の社会的要求に最大限対応させる改修を行なって、地域の活性化に寄与した小学校校舎、竣工後90年以上が経過した煉瓦造建築の書庫をレストランや会議室等にコンバージョンした大学施設、機能の向上のみならず周囲の環境との関連性を考慮した改修がなされた美術館、機能配置の偏りによる学生の集中や増築を繰り返し、統一性に欠けていた建物群に見事な統一感を与えた大学キャンパスが、選に残った。

これらの建築物をみると、名実ともに建築寿命を延ばすための新たな技術が、次々と開発され定着しつつあることが実感される。

応募作品の水準は年ごとに高まり、惜しくも選に漏れた建築物も多かったが、それらについては条件を整えて、再度の応募を期待したい。

BELCA賞も周知の範囲を広めつつあるが、今回新たに徳島県からの受賞があり、建築物の維持保全技術の全国的普及が、また一歩進んだ。未受賞の地域からの応募を切に期待したい。

(3) 第23回BELCA賞ロングライフ部門評（三井所副委員長）

第23回BELCA賞ロングライフ部門はキングホームズ代官山、神戸松蔭女子学院大学 六甲キャンパス及び明治神宮 外拝殿の3件の建築にかかわる所有者、原設計者、改修設計者、建築施工者及び維持管理者等に贈られることになった。

3件は高層賃貸共同住宅、学校施設、神社建築とその用途はそれぞれ違うが、共通して言える最も重要なことは、建物をできる限り元のままに保存して大切に使い続けたいという所有者の意思である。それは原建築とそれをつくった人々への敬意の表れであり、またその気持ちが維持管理者、改修設計者及び改修施工者に共有されて改修保全が全うされていることである。昨今建物が次々に売却されたり、ファンド化されて所有者が誰であるかわからなくなっているケースと比べるとはっきりすることであるが、所有している建物に誇りを持ち、多くの人々に快適に使われることに喜びを感じる気持ちである。例えば共同住宅では控えめの高級感であり、広さや天井高の高さや外部の庭で、居住者の住みやすさや来客への心地良さの提供である。大学では学生生活全体を包み込む学習環境そのものであり、一般に公開されている様々な催物を開催するソフトと施設である。神社では荘厳な境内の雰囲気を受け継ぐことであり、年間を通じ、頻繁に行われる祭事や毎日参詣に訪れる大勢の人をもてなす気持ちである。その気持ちをオーナーシップと言いたい。

大改修の保全事業の動機はいずれも耐震補強であり、地震に対する安全性を向上させ、大地震に対しても人命を保全しようとするものである。ただ3件に共通することはそのことで元の姿を損傷させないために様々な工夫を凝らしていることである。キングホームズ代官山は屋上設置物の撤去による軽量化、躯体への炭素繊維巻や増打、神戸松蔭女子学院大学 六甲キャンパスは耐震補強が必要な2棟に窓の形を活かした補強で内観・外観の保全に努め、明治神宮 外拝殿では国宝や重要文化財の木造の社寺建築の補強にもよく用いられている鋼材の梁や桁や火打等は一切用いず、古代長押や木ダボ組み板壁など木材による補強をすると同時に、強度の計算に限界耐力計算や時刻歴応答解析といった現代の先進的構造技術で安全性を確認して、見掛けの損傷を無くしている。

耐震補強を契機に建物全体の価値を向上させることも改修設計者に共通する。例えば省エネルギー対策であり、外観を保全するために外装タイルを全数チェックし、ピンニングなどの必要な補強を施し、欠損タイルは特別に色合わせした磁器質のタイルや炝器質のレンガタイルを注文して焼き揃えたり、付加した新しい木部には色合わせの古色を施すなどである。

今回受賞の3件に極めて印象的な共通点は、外部の緑、樹木を大切に保全していることである。明治以来のお屋敷の庭園を維持し、周囲と連担する崖線の緑を都市環境として保全し、岩盤ばかりの土地に客土して植えた樹々を大切に育て、校舎間のスペースを緑が豊かと感じさせるキャンパスを創造し維持していること、殺伐とした練兵場に全国から寄付された樹木を青年団のボランティアで植えた人工の森を自然の森のように育てあげた豊かな都市の杜に囲まれていることである。

受賞の3件は、いずれも優れた総合的な生活環境をそれぞれに維持していると高く評価できるものである。

(4) 第23回BELCA賞ベストリフォーム部門評(鎌田副委員長)

今回のBELCA賞応募件数は、前回に比べロングライフ部門・ベストリフォーム部門とも微増したが、表彰件数は両者合わせて10件以内ということから、選考委員会で慎重審議の結果、ベストリフォーム部門は7件ということで決着した。表彰に値すると判断された物件は、この後に記載される物件ごとの選考評に示されるように、それぞれに今後のリフォームのあり方を考える上での示唆に富むものである。

今回の表彰物件の特徴として、学校施設関係が多いことが挙げられる。ベストリフォーム部門では7件中4件を占め、ロングライフ部門の「神戸松蔭女子学院大学 六甲キャンパス」を含めると、表彰件数のちょうど半分の5件となる。しかしながら、表彰に値するとされた理由などは物件ごとにかなり異なる。

ベストリフォーム部門での「大阪大学会館」は、“創立当初より利用されている歴史ある建物を、大学のシンボルとして再整備する”という企画のもと、竣工当初の空間の骨格の保存・意匠の保存を優先するエリア、竣工当初の空間との意匠的連続性を配慮した意匠とするエリア、最新の機能性を整備することを優先するエリアの3つに分けた計画をし、メリハリのある改修を行っている。「つるぎ町立半田小学校管理教室棟」では、“学び舎の耐震改修と機能再生”を主目的とし、学童数の減少、授業形態の変化にも対応できるプランのあり方などを教職員、PTAの方々とのワークショップを通して決めたいえで改修しており、3寸勾配の置き屋根、南・東・西面の杉板での被覆などでデザインを一新するとともに、熱負荷削減も達成している。また、「東京大学伊藤国際学術研究センター(赤門書庫)」では、1916年に建てられた赤門書庫を、1階：フレンチレストラン、2階：ファカルティクラブ、3階：特別会議室に改修しているが、トイレ、バリアフリーの面から必要なエレベーターなどは、赤門書庫を2面から包み込む形の新築部分に設置している。「東京理科大学神楽坂キャンパス」では、順次増築されたため、統一性に欠けたデザインで、かつ一体感のない使い方をされていた7棟の建物を、年度毎に1～3棟をほぼ半年で改修する工事を4年間続け、工作物を付加する手法などを用い、統一性のあるデザイン、使用勝手上一体感のある建物群へ改修している。

以上4件の学校施設他、ベストリフォーム部門の表彰物件に選定されたのは、周辺環境に溶け込んだウッドシングル葺きの外壁、切妻屋根のデザインは極力保存し、団体・パッケージ旅行から個人旅行へ変化しつつある現状に対応させるための内部改修と、景色に溶け込んだ浴室棟増築を行った「裏磐梯高原ホテル」、建替えにより空家となった3区画・5住棟をスケルトン貸しされた3事業者が、シェアハウス・菜園付共同住宅・高齢者向け住宅・介護施設として再生させた「たまむすびテラス(りえんと多摩平、AURA243多摩平の森、ゆいま～る多摩平の森)」、「文化の顔」として生き返えさせるため、大規模な建物改修および設備の全面改修を行った「東京都美術館」の3件である。